

# TDM推進委員会見聞録（第七章）

## いよいよTDM施策の絞込み大詰め

第7回 TDM 推進委員会が、平成17年6月20日（月）午後1：30より、ウェルネスさがみはら視聴覚室で行われました。

今回は、愛川線の混雑状況をパソコンのシミュレーションで表現する「現況再現シミュレーション」の作成進捗状況の説明後に、TDM施策の絞込みの説明が事務局からありました。

愛川線の課題を踏まえ、渋滞要因ごとにTDM施策の分類を選定して、それぞれに具体的なTDM施策を抽出した過程が説明されました。

また、本格実施する前に期間限定で実施する「社会実験」のメニューについても説明があり、概ね了承されました。



## 議題について

高橋委員長の進行により議題が進められました。以下その内容を掲載します。

### （1）現況再現シミュレーションについて

作成の進捗状況としてはデータの微調整段階となっているので、シミュレーション結果の旅行時間について、実際と異なる点などの意見を伺うことになりました。

午前中に上溝から高田橋まで10分で行けたり、上溝交差点の渋滞長が300mしかなかったりと、幾つかの相違点が指摘されました。

交通事業者からは愛川線での旅行時間のデータを提供していただけることとなり、更に精度を高めることとなりました。

### （2）TDM施策の絞込みについて

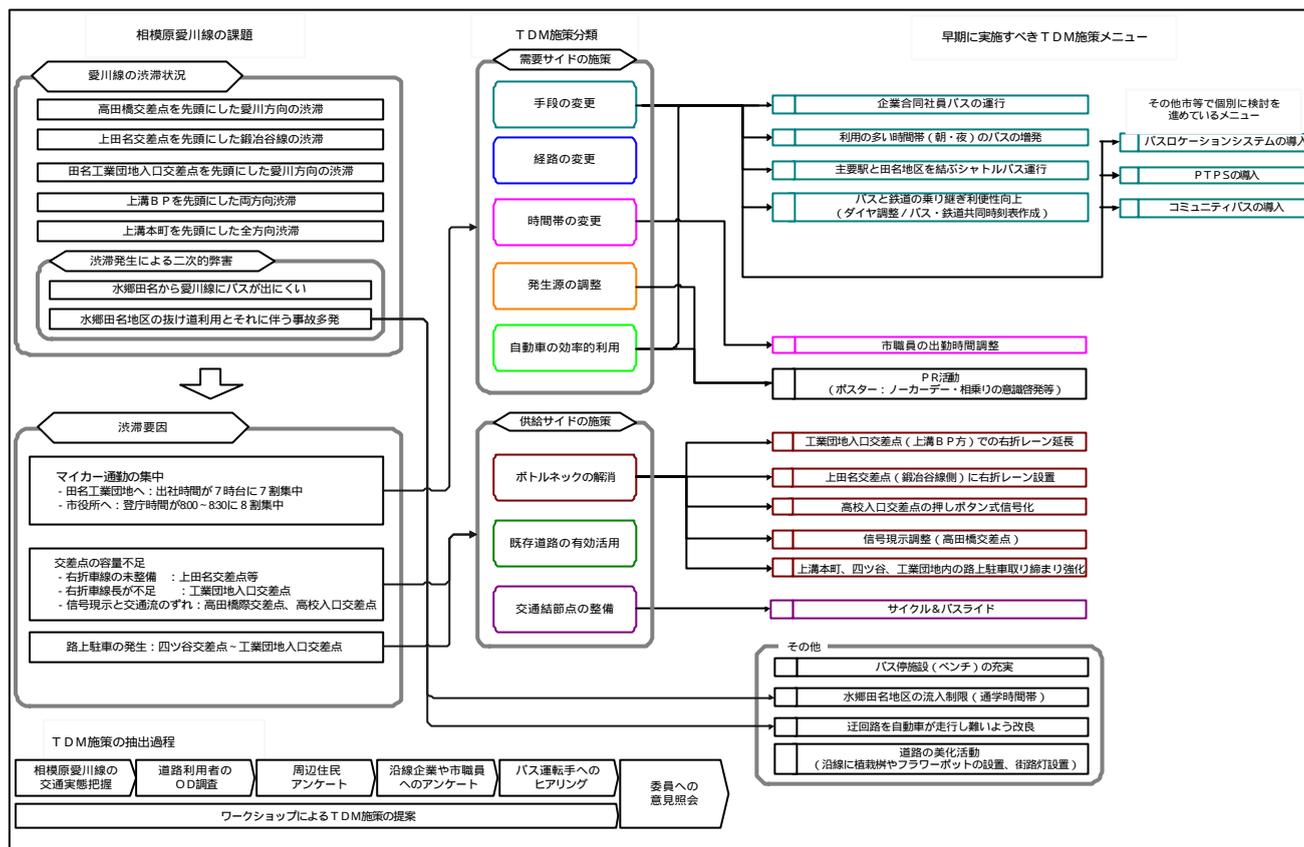
TDMワークショップで整理してきた愛川線における課題を踏まえて、その要因を「マイカー通勤の集中」や「交差点の容量不足」、「路上駐車発生」と整理をして、それぞれを「TDM施策の分類」と結び付け、具体的なTDM施策を抽出した過程の説明がありました。

また、TDM施策を本格実施する前に、期間を限定で実施して効果や実現性などを検証する「社会実験」について、今年度中に実施するためのメニューの説明もあり、概ね了承されました。

具体的なTDM施策の抽出した過程のフローを以下に示します。



## TDM施策の抽出フロー



主な意見交換は次のとおりです。

- ・ 高校入口交差点押しボタン信号化は流入車両の南方向への円滑化を目指すということが、流入車両がないにもかかわらず、信号が赤になることで愛川線南方向が渋滞することへの対応と考えている。
- ・ シャトルバス運行については、利用人数の想定や用地確保、セキュリティの問題で難しいが、企業合同社員バスは可能性がある。  
課題は多いが、出来るアイデアを出してほしい。
- ・ 社会実験の期間が5日間では、あまり効果がないのではないかと？  
すべて5日間というわけではなく、継続できる仕組みを作りたい。
- ・ 右折レーンについては、需要を調査し、恒久的施策としたほうが良い。水郷田名地区の流入制限の社会実験については、住民合意が必要なので、短期的には難しい。  
個々の施策について各主体と調整していき、詳細な実験内容を作成する。

### (3) 今後の進め方について

9月上旬までに各社会実験メニューの実施計画書(案)を地元や関係機関と調整しながら作成し、次回の委員会に諮ることとなりました。その後社会実験のPR活動を開始して、実験を行う予定です。

詳しい会議録については、相模原市ホームページの「審議会等の情報」よりお入りください。  
次回は9月12日(月)に開催。